

2021 年度 教育環境改善の取り組みについて

獨協大学では、「2020 年度 学生による教育環境改善のためのアンケート」の結果を受けて、下記のような取り組みを 2021 年度に実施致しました。

—授業に関する施設・設備等—

<教室（棟）>

天野貞祐記念館の空調システム（GHP）について、2021 年度は 5 階の教室を更新しました。機器の更新により、快適な環境を保持しつつ、省エネおよび省 CO₂を実現したいと考えています。

<アリーナ、人工芝グラウンド>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため「企画書」という記入フォーマットを導入し、学友会の各団体が通常の練習や活動と異なる形態でイベントや対外試合を実施する際には、その企画の概要と感染症予防の体制、対策を確認する取り組みを始めました。

<図書館>

感染予防対策の特別ルールのもと、館内一部施設の利用を再開しました。

①館内 PC ロッカー(9/24～)

- ・使用前後の手指消毒の徹底

②研究個室(11/22～)

- ・1 部屋につき利用は 1 日 1 名(全 13 室)
- ・利用時間の延長は不可
- ・利用終了後は利用者が机などの消毒を行う

③3 階静粛ゾーン(11/22～)

- ・換気のため扉は常時開放
- ・席数削減

④キャレルコーナー（3/24～）

- ・換気のため扉は常時開放
- ・使用前後の手指消毒の徹底

また、定期的な館内巡回と設備保守点検を実施し、速やかな修繕に努めました。

<西棟ラーニング・スクエア>

スタッフを常駐させ、オンライン授業での PC 操作などを中心に対応をおこないました。春学期には自身の PC を持ち込み利用する学生が多く、設置していた PC の上に持ち込み PC を乗せて利用している姿を多く目にしたため、秋学期からは一部の常設 PC を撤去して持ち込み PC が使いやすい環境に再整備しました。

<ICZ>

オンライン授業に対応するために、ICZ の運用を変更し、4 階はオンライン自習対応フロア、3 階はグループ学習フロアとしていましたが、コロナ前の ICZ の雰囲気にしてほしいという要望もあり、3 階については、秋学期からできうる限り通常の ICZ の運用に近づけるように対応しました。

—学生生活に関係する施設・設備等—

<学内の食環境について>

2021 年度春学期は新型コロナウイルスの感染状況拡大の影響を受けて、教職員食堂の学生利用を拡大したものの、学生食堂の営業はほとんどできませんでした。スタイルカフェ、スタイルカフェ・スタンドも営業には至りませんでした。

秋学期は、対面授業を中心としつつ感染状況を見ながら教育研究活動を進め、学生食堂での弁当販売のほか一部メニューの提供開始など、感染状況と学内の学生数を勘案しながら営業を行いました。

またキッチンカーは、秋学期より店舗が対応可能な日には出店しています。

<トレーニングルームについて>

学生センター2 階のトレーニングルーム利用講習会の参加予約は、今年度から予約システム DOORS により受け付けることとし、学生の利便性を図りました。

<学内分煙について>

キャンパス内に落ちているタバコの吸い殻の数について、春学期は 2019 年度に一日当た

り 65 本であったものが、2021 年度には 6 本となりました。喫煙ボックスの外での喫煙者は、2019 年度は一日当たり 4 人であったのが、2021 年度は 0 人でした。

—窓口—

<教務課>

履修相談について、チャットボットを採用するなど、窓口時間にとらわれず相談に対して迅速に対応できるよう整備しました。

<学生課>

学生センター1階フリースペースの予約、2階のトレーニングルーム利用講習会の参加予約は、今年度から予約システム DOORS により受け付けることとし、学生の利便性を図りました。

また今年度から、大学に募集案内が来る自治体、奨学金財団、企業等の奨学金のお知らせを、PorTa II 「掲示板」→「学生生活・奨学金」に随時掲載するようにしました。

<カウンセリング・センター>

昨年度はコロナ禍のため開催できなかったセンター主催の講演会「こころが楽になるマインドフルネス体験」を、今年度は 11 月にオンライン開催しました。

<キャリアセンター>

課内全体会、アドバイザーとの意見交換会、障害のある学生支援の研修会を実施し、課全体の窓口の質の向上を図ることができました。

学生モニターによる意識調査を実施し、学生の実態を参考に対応するよう心がけました。

外部の研究会に参加し、企業及び他大学との情報交換から得た情報が新たな取り組みの参考にすることができました。

<教育研究支援センター (ICZ) >

TOEIC の申し込みについて、今年度より TOEIC® L&R 公開テストの申込を再開しました。予定通り午前、午後の受験についてそれぞれ 50 名を定員として募集をかけたのですが、11 月 28 日実施分より定員を 70 名に増やして対応をしています。

<教育研究支援センター (ヘルプデスク) >

メールでの問い合わせのため用意した「問い合わせフォーム(PorTa II ダウンロードセンターへ掲載)」を利用して、あらかじめ問い合わせ事項をお知らせいただくケースが増えたことで、解決までに要する時間も短縮できました。併せて、コロナ禍で大きく変わった授業環境について、みなさんの役に立つ新たな情報を提供すべくスタッフへの周知を徹底し、スキルのアップデートに取り組みました。

ヘルプデスクの周知について、ヘルプデスクという問い合わせ窓口の存在を知っていただくために、サポート内容などの紹介ページを作成し、大学 HP に掲載しました。こうした取り組みもあり、以前にヘルプデスクを利用した学生から聞いてきた、という方の来訪もありましたが、みなさんに存在を広く知っていただくことについては、まだまだ不十分であると考えています。

<教育研究支援センター（天野貞祐記念館 2 階窓口）>

2021 年度は PC の貸出を取りやめたため、貸出 PC の問合せに対して、学内に設置した自習スペースのパソコンを案内しました。その際、「自習スペース」MAP の冊子を配付するだけでなく、利用用途を確認の上、「発話できる場所」「飲食できる場所」など、的確に案内することにより、スムーズに PC を利用できたかと思えます。

貸出用 PC について、自身の PC の故障等により一定期間オンライン授業が受講できないなどといった場合は、事情を伺ったうえで、東棟ヘルプデスクと連携を図り速やかな対応をすることができました。

窓口では、「持込 PC 対応」や Zoom や manaba などシステムに関する問合せが増えることを予測しスタッフのスキルアップを図りながら、年間を通して窓口サービスの改善に努めました。結果、Word、Excel の操作だけでなく持込 PC の無線 LAN 接続など、速やかに案内することができました。

<クレアス>

春学期に「発話のできる場所がすくない」との意見が寄せられたため、秋学期には発話のしやすい環境を実現しました。

また、急遽オンライン授業になった際の PC の CLEAS 内貸出やオンライン授業受講中のスマートフォン充電にも対応しています。

<国際交流センター>

相談業務については、感染症対策の一環としてオンライン予約システム (DOORS) を用いた事前予約方式を採用入れました。対面と Zoom のいずれにも対応する体制を整え、利用しやすい環境の整備に努めました。希望に応じて電話での相談にも応じました。また、新た

にコロナ禍における情報発信の一環として、「国際交流センターニュース」を月1回（8月・9月、2月・3月は合併号）発行しました。

<エクステンションセンター>

対面講義を期待する声への対応について、春学期より総合旅行業務取扱管理者試験対策講座、情報処理講座 IT パスポートコースを対面講義で実施しました。秋学期より公務員試験対策講座、Mos 講座、秘書検定講座も対面講義で実施しています。

秋学期のガイダンスや公務員講座に付随する個別面談は Zoom を利用した遠隔相談と対面相談を選択できる形式で実施し、学生のみなさんの希望に合わせた柔軟な対応をすることができました。

<学友会>

6月に各施設の利用時間と利用上限人数を見直し（拡大）、それに合わせて新たな感染症予防対策を策定し、活動上の要件として設定しました。

7月には、人工芝グラウンドを利用する上での熱中症予防のための利用カレンダーを策定し、安全に運用することができました。

宿泊を伴う課外活動について、実施上の要件と承認フローを定め、限定的に活動を実施することが出来ました。